

IMS 基本方針

1. 目的

ケイ・エヌ情報システム株式会社は、顧客に提供する情報システム資産を保有している。社内外の部門間の情報伝達経路の多様化、新しいネットワーク技術の導入等により、情報の漏洩・改ざん、天災・ネットワーク機能の破壊等によるサービスの中断、長期間にわたる停止等、事業・業務執行における潜在的なリスクを有している。また、顧客に提供する情報システム資産及びサービスにおいては高い品質が要求される。

情報セキュリティマネジメントシステムと品質マネジメントシステムを統合した統合マネジメントシステム（以下 IMS という）の構築・維持のプロセスを通じてこれらのリスク及び要求を客観的、体系的に把握し、対処し、高い品質を維持するための仕組みを確立する。

事業、リスクの変化に応じて継続的かつ柔軟に対処し、常時 PDCA サイクルの視点から改善を行う企業風土づくりを行い、顧客サービスにあたっては継続的な満足度の向上を目指す。

2. 法令・規制の順守

顧客情報資産の保護、サービスの継続的かつ円滑な提供の義務を果たすため、個人情報保護法、不正アクセス防止法等 IMS 構築維持に必要な法令・規制の順守を行う。また関連する社内規程を整備し、有効に運用するための対策・体制を確立する。

3. IMS 組織環境の確立

事業とリスクおよびその環境変化を適切に把握し、対処方法を確定し、IMS を推進する組織として、ISO 委員会を設置し、情報資産管理を徹底するとともに、IMS の推進体制や成果を評価する内部監査の組織を持つ。

システム開発・運用・サービス提供業務部門におけるセキュリティ確保を含めた教育の実施とともに、社員全員に対してもセキュリティに関する教育啓蒙を定期的に行う。

4. リスクへの継続的な対応

情報資産の保護・顧客へのサービスの継続的な提供を最重要な課題としてとらえる。それらを維持・運営管理するシステムはセキュリティを維持する一方で、外部の脅威にさらされたり、漏洩・悪用されるリスクを有する。

これらの業務は日々の活動の核であり、この停止は企業存続に大きな影響を及ぼすため、併せて機密性・完全性・可用性についても考慮する。

なおリスクマネジメントは客観的に体系化され、重要なリスクを見出し対処する仕組みとし、継続して見直しが行われる体制とする。

5. 信頼できる品質

お客様とのコミュニケーションを大切にし、お客様に信頼され、満足いただける高品質の製品及びサービスを提供する。また、社員一人一人がプロフェッショナル意識を持ち、業務に誇りと責任を持って取り組み、品質の向上と改善に努める。

2018年6月20日

ケイ・エヌ情報システム株式会社
代表取締役 竹村 久志